

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月1日

学校法人 ひかりの子学園 ひかりの子幼稚園

## 1. 本園の教育目標

- キリスト教の理念に則り、子ども一人ひとりには神さまから愛されているかけがえのない存在として捉えます。
- 自由保育を基本とし、自分と他者を互いに愛すること、子どもたちの主体性を尊重することなど、共に生きることを通じた幼児期の心身の成長を見守り支えます。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」に照らし合わせ、一人ひとりの幼児を大切にした質の高い教育の実践をするために、本年度「子どもの声を聴き、深めていく保育」を目指します。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

No.	評価項目	評価	取り組み状況
1	環境	AA	<p>コロナ明け、プール活動は年中、年長組は6、7月の体育遊びの時間にプールで遊べた。1回ごとのプールの消毒を徹底し、体育指導者、見守り2人、計3人体制で見守りを行い、安全対策を万全にして臨んだ。</p> <p>年少組は園庭のじゃぶじゃぶ池や噴水で、晴れの日にはできるだけ水遊びを行った。園庭のじゃぶじゃぶ池は、毎日開催できるようになった園庭開放でも大活躍だった。</p> <p>中庭のウッドデッキも完成し、保護者給食試食会、クリスマスツリーの点灯式など、中庭の活用場が大いに広がり、保護者からも好評であった。</p>
2	安全管理	AB	<p>昨年に引き続き月1回安全点検を実施している。その都度対応、修理していることで、昨年度に比べ修理箇所が減少していることが伺われる。しかし経年劣化の為、ホールの園児いす、保護者のパイプ椅子など、老朽化しているものも目立ち、買い替えの時期が来ているものもある。</p> <p>引き続きヒヤリハットの報告も行い、大きな事故になる前の点呼・確認などに配慮しながら保育を行っている。</p> <p>「置き去り防止活動」の為、自園で動画を作成し学年ごとに、ホールにて鑑賞会を実施した。自園の通園バスを使用し、バス通園の園児に動画撮影に協力を得て、行われた活動は子どもたちにも非常に理解し易い内容であった。</p> <p>① 「置き去りにならないように、寝ている子どもをみんなで見守る事」                  ② 「もし取り残されたらクラクションをこうして鳴らすこと」を具体的に人形劇にして学ぶことが出来た。</p>
3	保護者支援	A	<p>月1回のお誕生日会の保護者参加の時間を、コロナ禍で短縮していた1時間から4時間延長した。保育参観ではなく、保育体験をしてほしいという園の思い・目的を始まる前に対象の保護者にお伝えし、一緒に遊び、礼拝し、昼食を食べることを通して、子どもの成長と一緒に喜び合える日となっていることを実感している。</p> <p>各月実施している「育自のひろば」も少人数の保護者参加だが、宗教主事高陽牧師を囲んで保護者の悩みを聞き合い、本音で話せる貴重な場所になっている。</p> <p>来年度は、お母さんコーラス「トゥインクル」のクリスマスコンサートなども計画し、お一人でも多く参加して頂けるよう企画している。</p> <p>本当に悩んでいる保護者ほど、園には相談がないと考えられる。子どもの様子から家庭の様子を推察し保護者に働きかけるものの、保護者の心の準備が十分でない場合、届かないこともある。キダーカウンセリングの小林先生にも相談しつつ、連携を図るタイミングを異さないように、細心の注意をはらい支援に取り組んでいる。</p>

4	異年齢交流	A	<p>例年取り組んでいる、異年齢のクラス交流に加え、毎月の「あそぼう会」で未就園児の子どもが園庭で保護者と共に遊ぶ姿がある時「小さい子がいるから外に出るのをやめるのではなく、大きい子はどんなふうに遊んだらいい?」「小さい子はどんな声掛けをしてもらったら嬉しい?」と担任は声掛けを行い、助け合いながら自然な交流を心掛けた。</p> <p>来年度は地域の方に向けて、園庭開放を週1回月曜日11時から12時まで行う予定で、未就園児の地域交流の場を提供する予定である。</p>
5	情報発信	AB	<p>子育て支援の「あそぼう会」の予定や様子を、Instagramで情報発信することに特に力を入れた。毎月の「あそぼう会」は待機が毎回でるほどの盛況であり、地域の保護者の「子どもを遊ばせたい」「自分も誰かと話したい、繋がりたい」という思いが伺われる。</p> <p>学校評価アンケート、お誕生会アンケートの実施結果により、クラスだより、園長通信などを通じて「園の理念」「保育方針」が保護者に少しずつ根付いている事が伺える。多様な情報が交錯する中で、強い意志をもって「一人ひとりが神さまから愛されている存在である」ことや「生きる力」を育てていくことの大切さなど、これまで以上に発信して行く。</p>
6	職員研修	AB	<p>絵画造形研修、プロジェクト保育研修、特別支援教育研修、保健衛生安全対策研修、幼児教育研修、乳児保育研修、アレルギー研修、マネージメント研修、保護者支援研修、絵本研修、人権研修、トップリーダー研修、他園見学などの必要な職責ごとに研修に参加した。</p> <p>兵庫教育大学の鈴木助教授、龍谷短期大学羽深了教授に研修を依頼。また交野教会牧師高陽先生より月1回聖書のお話を聞き、キリスト教の知識を深めるとともに保育の中で活かせる努力を行った。</p> <p>年度末には全職員を対象に、山本衣奈子先生のコミュニケーション研修を3回シリーズで行う予定である。</p> <p>保育の質の向上、教職員のやりがい、人材育成を目的とするキャリアパス策定に取り組んでいる。これにより、育児休業から復帰する時短教員や各人の役割や職務分掌を明確にし、組織全体で取り組む姿勢を確立していく。</p> <p>※キャリアパスとは目指す仕事や、ポジションにつくまでにどのような仕事をいつまでに経験し、必要なスキル、能力をどの位のレベルまで身につけるべきかを明文化したもの</p>
7	仕事の軽減化	B	<p>計画的に仕事をしていくことを呼びかけ、18時までに帰ることを継続して推奨している。しかし18時半を過ぎることが常態化している職員も見られ、健康面を考えると心配である。来年度は18時以降仕事をする場合は上席者に申請し、職員室で集中的に仕事をする事を検討している。</p> <p>管理職においても、閉園時間までの勤務が常態化している。職務分掌を策定する中で、これまで管理職にて行ってきた職務を教員に分担していくことで、経験となり、それらを人材育成につなげて行く。</p>

評価 (AA…十分に成果があった A…成果があった AB…成果があったものの不足していることも見受けられた B…少し成果があったがまだ十分ではなかった C…成果がほとんどなかった )

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
AB	<p>評価項目について、今年度も教職員全体で真摯に向き合い取り組んでまいりました。コロナが明けて、止まっていた活動が思い切ることができるようになってきました。「子どもの声を聴く、深めていく保育」～プロジェクト型アプローチを行ったクラスの取り組みを園内研修で共有し、個々の職員の意欲や保育の質の向上に努めてまいりました。～はちの巣プロジェクト、グッピープロジェクト、お化け屋敷、夏まつり、かき氷屋さん、Ｔシャツ作り、給食室探検、小鳥を飼いたいプロジェクト～など各クラスで様々な活動がありました。</p> <p>1年を通して子どもの遊びからタネを拾い続けたクラスもあれば、一回限りで終わったクラスもあります。1回で終わったことがダメなのではなく、どの活動にも子ども達の真剣な話し合いやたくさん経験がありました。今後も子どもの探求に繋がるように環境や遊びを準備し、保育者主導でなく子ども達の探求する力を信じていきたいと思っています。年度末にはプロジェクト型アプローチ保育の園内研修を予定しています。</p> <p>保護者のアンケート自由記入欄から読み取れたことは、～キリスト教精神である「心の教育」「愛の教育」が園全体の雰囲気になされていることに共感を覚え、園を信頼してお子さんを送り出して下っていることです。今後も人生の基礎を培う幼児教育の重要性を意識して、保育の質の向上に努めていきたいと考えております。</p>

評価（AA…十分に成果があった A…成果があった AB…成果があったものの不足していることも見受けられた B…少し成果があったがまだ十分ではなかった C…成果がほとんどなかった）

#### 5. 学校関係者の評価

- 環境における安全対策が取られた中でのプール活動再開は、再び活動の狙いが達成され喜ばし限りです。願わくは、年長児に対しては小学校の大きなプールでの授業への期待や憧れに繋がるような活動を期待します。また、園庭水遊びや中庭の改修のように、より良い保育環境を模索し続けること、そして、実践し続けることは大切であり継続を期待。
- 安全管理における園バスの置き去り防止活動は、子ども達的心情（不安や心配を煽らない）に配慮しつつ保育者と一緒に考え、動画視聴と共に指導することで理解を深め記憶の定着に繋がる内容であり素晴らしいと思う。但し、一過性にならず学期毎に行うなどの継続性が必要と考えます。また、実際にクラクションを鳴らす経験も、子ども達ひとり1人の安心に繋がると考えます。
- 保護者支援に於いて、保育参観を“保育体験”とする位置付けは、そのねらいや想いが保護者に伝わり“保護者も共に育つ”とした理念に通じる保育活動に思えます。また、本当に悩んでいる保護者の心持ちを理解したうえで寄り添う支援活動はひかりの子らしくて素晴らしいです。
- 異年齢交流に於いて、“あそぼう会”利用未就園児に対して在園児からの交流を試みた活動は大切な事と思ひ、また、次年度は園庭を未就園児にも開放する予定とのことで、この活動（未就園児の地域交流の場の提供）は社会貢献の観点からも有意義に思ひます。行事に参加することで異年齢交流の楽しさは確かに伝わります。
- 情報発信に於いて、クラスだよりやインスタグラムなどは頻度・内容的にも日々の保育の内容がよく伝わり、保護者からも喜ばれていることが窺えます。これらの情報発信は地域のプレママや未就園児保護者にとって有意義な子育て支援でもあると考えます。
- 職員研修に於いて、定期的な研修や園外からの視点・助言は、職員だけでなく園にとっても有益だと思います。一方で研修の多さが保育者の負担にならないか気がかりです。
- 仕事の軽減化活動に於いて、ワークライフバランスの崩れによる保育者の精神的・肉体的負担はQOLを低下させ、また、教育保育を受ける子ども達・保護者の育ちを損なわせる。研修の多種・多様化や新たな業務の分担に配慮し、清掃作業の外注化など業務の見直しを含めた取り組みにより仕事の軽減化評価が“A”となることを期待。
- こどもが1人であることについて、さまざま状況や理由があつての事でしょうが、そのような場面を保護者が目にするると心配や不安な思いを感じるのは当然であり、他の保育士にヘルプを呼べる体制や見回りする等の対策が保護者の安心に繋がると思ひます。一方で、そのような場面は子ども達が何かを学ぶ機会でもあると考えます。人がたくさんいる空間で一人行動することも、子ども達だ

けで過ごすことも小学校以降では普通にある状況なので、幼稚園の頃に経験しておいても悪いことでは無いと考えます。

- 保護者の評価結果は全体的に好評で、子ども達と保育者との関わり方・保育の実践の賜物であり、保護者の安心感や信頼感向上に繋がる運営がされていることが窺える。子ども達の将来の力に繋がる保育の継続を期待。一方で、評価項目ごとの点数のばらつきが少なく、問題発見や改善に繋がるフィードバック効果を懸念します。
- プロジェクト保育の充実を目を見張ります。活動の意図するところ・大切さが各取り組みからよく伝わってきます。子ども達に育つ力（非認知能力・社会力）は保育者の意欲の賜物であり、卒園後の子ども達の活躍する姿を期待します。
- 保護者との信頼関係を構築するうえで、保護者と保育者間で知りえた情報の他保育者との共有と開示は慎重に行われるべきと考えます。
- 上靴・外靴の境界の件は、改めて園としての考え方を周知されてはいかがでしょうか？
- ひかりの子幼稚園の教育を通じてどのような人間を育てようとしているのか、ひいてはどのような社会を目指しているのかを常に教育実践と結び付けてほしい。
- 教育機関として教育理念よりも経済を優先させることのないように、経営と教育とのバランスを取り続けてほしい。

## 学校関係者(理事、評議委員)の評価 におけるの応答

○職員研修に於いて、定期的な研修や園外からの視点・助言は、職員だけでなく園にとっても有益だと思えます。一方で研修の多さが保育者の負担にならないか気がかりです。

→就業中の研修でなく、できるだけ夏休みに研修が受けられるように計画を立てる

○仕事の軽減化活動に於いて、ワークライフバランスの崩れによる保育者の精神的・肉体的負担は QOL を低下させ、また教育保育を受ける子ども達・保護者の育ちを損なわせる。研修の多種・多様化や新たな業務の分担に配慮し、清掃作業の外注化など業務の見直しを含めた取り組みにより仕事の軽減化評価が“A”となることを期待。

→年度末清掃もしくは業者の閑散期に外注を検討中

○こどもが1人であることについて、さまざま状況や理由があつての事でしょうが、そのような場面を保護者が目にするに心配や不安な思いを感じるのは当然であり、他の保育士にヘルプを呼べる体制や見回りする等の対策が保護者の安心に繋がると思えます。一方で、そのような場面は子ども達が何かを学ぶ機会でもあると考えます。人がたくさんいる空間で一人行動することも、子ども達だけで過ごすことも小学校以降では普通にある状況なので、幼稚園の頃に経験しておいても悪いことでは無いと考えます。

→子どもがクラス内に一人であることは皆無でないが、巡回の職員がいないときは、隣や職員室に声をかけるなど協力体制をとっていく

○保護者の評価結果は全体的に好評で、子ども達と保育者との関わり方・保育の実践の賜物であり、保護者の安心感や信頼感向上に繋がる運営がされていることが窺える。子ども達の将来の力に繋がる保育の継続を期待。一方で、評価項目ごとの点数のばらつきが少なく、問題発見や改善に繋がるフィードバック効果を懸念します。

→点数の低い項目～挙げて改善策を練る

○保護者との信頼関係を構築するうえで、保護者と保育者間で知りえた情報の他保育者との共有と開示は慎重に行われるべきと考えます。

→他の教員と共有して園全体で見守る必要があることか、担任だけが知っておいた方がいいことか？の判断は必須であり今後留意していく

○上靴・外靴の境界の件は、改めて園としての考え方を周知されてはいかがでしょうか？

→周知文検討してお手紙を出す

○ひかりの子幼稚園の教育を通じてどのような人間を育てようとしているのか、ひいてはどのような社会を目指しているのかを常に教育実践と結び付けてほしい。

→「自己肯定感」と「非認知能力」を育て「生きる力」を育む。園に関わるすべての人が共に成長することを学園理念とする。そのような人達が創る社会は、聖書が伝えているイエス様の生き様(見返りを求めずに、心から喜んで自分の賜物を他人のために捧げることができること)を知り、自分もそのように生きてみようと思い、そのような社会を目指すことである。

## 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
1. 人材育成を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひかりの子学園の教育保育のよりどころである「学園理念」を全職員で再確認し、ひかりの子に関わる子ども・保護者・保育者など<u>すべての人が共に成長することを目指す。</u> (管理職、担任、新任、加配、バス添乗教員の育成)</li> </ul>
2. キャリアパスの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり1人が役割をもち、能力を発揮しながら協働するために、キャリアパス、園務分掌、組織図、行事分担表を明文化し、全職員で共有、円滑に運営し「人が育つための仕組みづくり」を目指す。</li> <li>・キャリアパス評価シートで自己評価、目標を設定しPDCAで振り返り、成長を目指す。</li> </ul>
2. 繋がる保育(プロジェクト保育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊びを観察し、子どもの関心や興味が繋がり、深まるよう環境の工夫をし、さらに遊びから学びが生まれることを意識して保育する。</li> </ul>
4. 研修	<p>個人の成長と保育の質の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高陽牧師の聖書研究(聖話を学ぶ)</li> <li>・大橋先生の絵画研修</li> <li>・鈴木先生のプロジェクト保育研修</li> <li>・小林先生の特別支援教育研修</li> <li>・狩野先生の絵本研修</li> <li>・個人で受けた研修のアウトプットの仕方を検討</li> </ul>
5. 子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就園児親子が気軽に来園できる機会を増やす。</li> </ul>
6. 仕事の軽減化	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月のシールノートコメントの廃止(それに変わるポートフォリオの学び)、18時退勤ができるようになるための働き方の工夫を検討</li> </ul>

今後も園内外問わず、頂いたご意見には真摯に向き合い教育施設としての役割と使命をもって鋭意努力して置く所存です。利用していただく園児保護者のみならず、教職員の想いの実現の場であるよう運営してまいります。